



ロッテルダム～モスクワを結ぶ独自の陸上輸送ルート「EB3000 (RM)」

# 第109期 報告書

2014年4月1日～2015年3月31日

With Your Life



## 株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

第109期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

渡邊 健二

当連結会計年度のわが国経済は、消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動減や物価の上昇により、個人消費に弱さが見られたものの、追加金融緩和や米国経済の回復などを背景とした円安の進行に加え、原油価格の大幅な下落により企業の収益環境が改善するなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

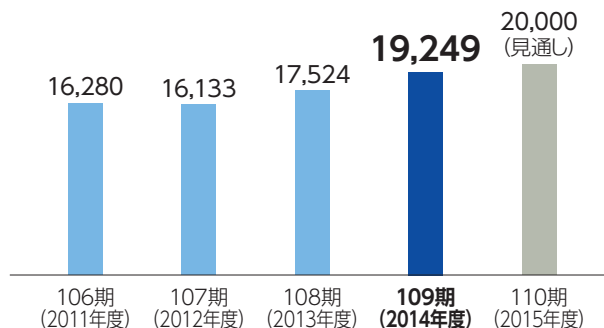
このような経済情勢のなか、物流業界におきまして、国内貨物は、消費関連貨物の輸送が伸び悩むなど厳しい状況で推移いたしましたが、国際貨物は、米国、アジアを中心に自動車関連や電子部品関連の輸出が増加するなど、

## CONTENTS

株主の皆様へ	P 1
連結業績の推移	P 1
国内トピックス	P 5
海外トピックス	P 7
連結財務諸表	P 9
会社の概況	P 11
株主さまインフォメーション	P 13

## 連結業績の推移

売上高 (単位: 億円)



総じて堅調に推移いたしました。

日通グループは、このような経営環境のもと、「日通グループ経営計画2015-改革と躍進-」の4つの基本戦略である「グローバルロジスティクス事業の更なる拡大」「国内事業の経営体質強化」「グループ各社の多様性を活かした事業拡大」「CSR経営に基づく、事業を通じた社会への貢献」の遂行に、グループ一体となって取り組んでまいりました。

具体的には、グローバルロジスティクス事業において、複合一貫輸送サービスの拡販や海外で活発化する域内物流の獲得に向け、現地法人の設立やロジスティクスセンターの開設など、海外各エリアにおける拠点展開を積極的に進めるとともに、ボーダーレスな輸送ネットワークの拡充に取り組んでまいりました。

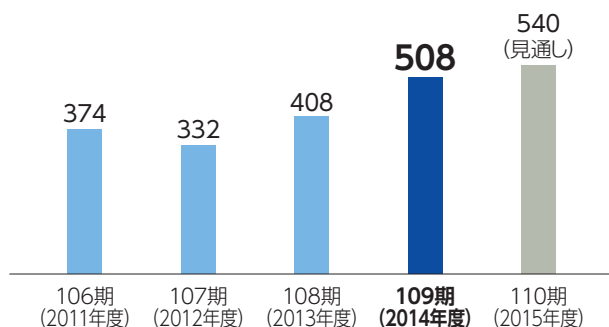
また、国内事業においては、陸・海・空の枠を越えたワンストップ営業体制の強化や、運賃の適正収受に向けた料金改定を実施するなど、収益性の最大化を図る一方、運行管理と作業管理を統合したオペレーション支援システムの導入などにより経営資源の効率的な運用に努めてまいりました。

さらに、地球環境への責任や良識ある企業行動、人権の尊重など、グローバルロジスティクス企業として取り組むべき重点課題を「Nippon Express' Global CSR」と定め、日通グループ全体で、CSR経営を強力に推進してまいりました。

この結果、第109期連結経営成績につきましては、連結売上高は1兆9,249億円(前連結会計年度比9.8%増)、連結営業利益は508億円(前連結会計年度比24.3%増)、連結経常利益は595億円(前連結会計年度比18.8%増)、連結当期純利益は263億円(前連結会計年度比0.1%増)となりました。

今後の経済動向につきまして、海外経済は、活発な個人消費を背景に、米国経済が底堅く拡大すると見込まれているものの、原油価格の下落にともなうロシア経済の低迷や中国における景気減速などへの懸念から、先行き不透明な状況で推移するものと予測されております。また、国内経済は、企業収益が回復するなか、雇用環境の改善

営業利益 (単位: 億円)



セグメント別の状況(連結) (単位: 億円)

			売上高	セグメント利益
運送	国内会社	複合事業	7,423	182
		警備輸送	554	8
		重量品建設	468	21
		航空	2,107	101
	海外会社	海運	1,188	49
		米州	791	34
		欧州	836	23
		東南アジア	1,013	19
		南アジア・オセアニア	646	9
販売その他			4,201	64
調整額(全社・消去)			1,436	26
計			△ 1,417	△ 31
			19,249	508

## 株主の皆様へ

や設備投資の増加などにより、景気は緩やかながらも回復基調で推移するものと見込まれております。

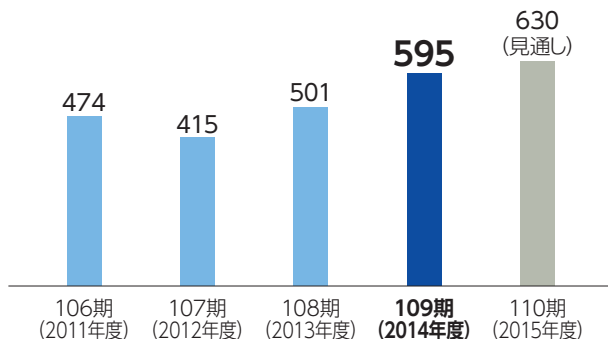
物流業界におきましては、国際貨物では、円安の影響もあり、輸入に大きな伸びは見込めないものの、輸出は米国向けを中心に、引き続き堅調に推移すると予測されております。また、国内貨物では、個人消費の持ち直しや企業在庫の減少にともなう生産の回復に加え、一部で製造業の国内回帰などの動きもあり、輸送量の増加が期待されております。一方、トラックドライバー不足への対応や新興国におけるCO<sub>2</sub>排出量の拡大による環境問題の顕在化、さらには複雑化する国際物流に対応したセキュリティの強化など、取り組むべき多くの課題に直面しております。

日通グループは、このような経営環境のもと、最終年度を迎えた「日通グループ経営計画2015-改革と躍進」の完遂に向け、「グローバルロジスティクス事業の更なる拡大」「国内事業の経営体質強化」「グループ各社の多様性を活かした事業拡大」「CSR経営に基づく、事業を通じた社会への貢献」の4つの基本戦略に全力で取り組んでまいります。

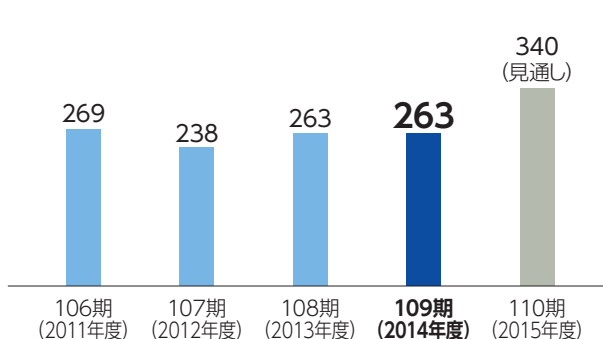
- 「グローバルロジスティクス事業の更なる拡大」では、国際関連事業売上高比率40%の達成に向け、グローバルフォワーディング事業の強化と海外域内物流サービスの拡販などにより、サプライチェーン全体の獲得や非日系企業との取引を拡大することで、グローバル市場において更なる成長を実現してまいります。
- 「国内事業の経営体質強化」では、陸・海・空の総合力を発揮できるワンストップ営業体制の強化により、アカウント営業に取り組み、大都市圏における更なるシェア拡大を目指すとともに、オペレーション支援システムを最大限に活用するなど、経営資源の効率化と収益性の向上を図り、国内複合事業における営業利益率を3%に改善してまいります。
- 「グループ各社の多様性を活かした事業拡大」では、多様化するニーズに総合的に応えるべく、グループ各社の持つビジネスソリューションを組み合わせたトータルロジスティクスの展開を推し進め、日通グループの更なる成長と事業拡大に取り組んでまいります。
- 「CSR経営に基づく、事業を通じた社会への貢献」では、

## 連結業績の推移

経常利益 (単位: 億円)



当期純利益 (単位: 億円)



物流事業者としての社会的責務である安全の確保をすべてにおいて優先して取り組むとともに、災害時など不測の事態にあっても、お客様の事業の継続を支援できる体制の構築や、地球に優しいグリーンロジスティクスのグローバル展開など、日通グループだからこそできる価値を創出し、事業を通じてお客様や地域社会へ貢献してまいります。

日通グループは、グローバルロジスティクス企業としてさらなる発展を目指し、2015年5月に大幅な組織改正を実施いたしました。今後も経営環境の変化に柔軟に対応し、より一層の企業価値向上を目指し、株主の皆様のご期待にお応えする所存でございますので、株主の皆様のあたたかいご理解とご支援をお願い申し上げます。

2015年6月

## 日通グループ経営計画2015

－ 改革と躍進 －

ビジョン

- グローバルロジスティクス企業
- 地球への責任を果たす企業
- 人にやさしい企業

国際関連事業売上高比率

2015年度 **40%**

国内複合事業営業利益率

2015年度 **3%**

経営計画の  
基本戦略

成長性

グローバルロジ  
スティクス事業の  
更なる拡大

社会性

CSR経営に基づく、  
事業を通じた  
社会への貢献

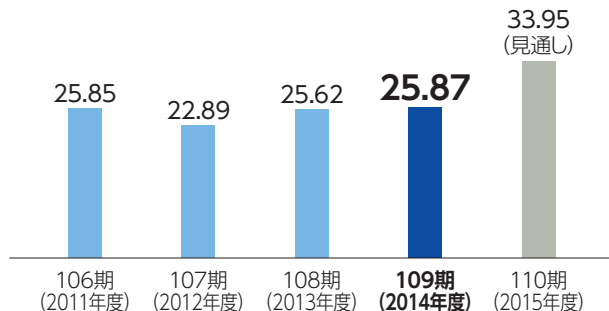
収益性

国内事業の  
経営体質強化

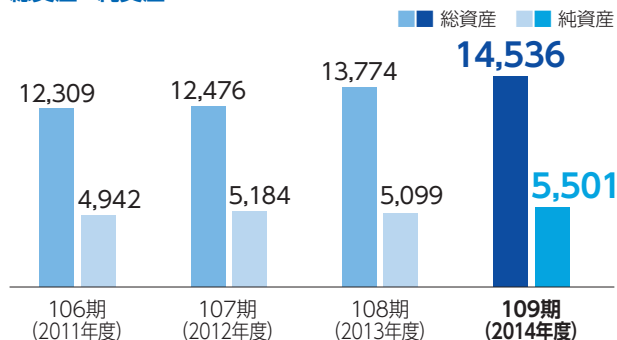
成長性

グループ各社の  
多様性を活かした  
事業拡大

1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資産・純資産 (単位:億円)



# 国内トピックス

(2014年10月1日～2015年3月31日)

当社では国内において、当下半年もさまざまな活動を行ってまいりました。こちらではその一部をご紹介します。

## 国内ネットワーク(2015年3月31日現在)

### ● 統括支店

札幌支店、仙台支店、群馬支店、東京支店(東京都中央区)、名古屋支店、大阪支店、四国支店(高松市)、広島支店、福岡支店、東京航空支店(東京都港区)、東京国際輸送支店(東京都港区)、関東警送支店(東京都江東区)など57支店

※なお、上記のほか、全国各地に174支店および127営業支店ならびに営業所・事業所などを配置しております。



会社情報



サービス情報

2014  
10月

## 日通商事が創立50周年

日通商事株式会社は、2014年10月1日をもって創立50周年を迎えました。1964年に創立した同社は、現在売上高4,000億円を超える日通グループの中核企業となりました。また、創立50周年を記念して、公益財団法人日本盲導犬協会に、イラストをあしらった車両と現金を寄付いたしました。



贈呈式での日本盲導犬協会井上理事長(左)と日通商事濹澤社長(右)

2014  
10月

## 「舞鶴国際埠頭倉庫」を開設

当社は、京都府舞鶴市に「舞鶴国際埠頭倉庫」を開設いたしました。舞鶴港は関西経済圏における日本海側唯一のゲートウェイであるとともに、北東アジアやロシアとの窓口としても注目されております。当社は、今後も物流ネットワークの拡充により、多様化するお客様のニーズにお応えしてまいります。



2014  
10月

## 「第46回全国トラックドライバー・コンテスト」2部門で優勝

当社グループは、2014年10月25日・26日に開催された公益社団法人全日本トラック協会主催の「第46回全国トラックドライバー・コンテスト」に出場し、女性部門では森田泰子選手(鳥取支店)が、トレーラー部門では川路雄介選手(鹿児島支店)がそれぞれ優勝を果たしました。



女性部門で優勝した森田泰子選手



2014  
12月

## 「エコプロダクツ2014」に出展

当社は、2014年12月11日～13日、東京ビッグサイトで開催された一般社団法人産業環境管理協会主催の「エコプロダクツ2014」に出展いたしました。当社ブースでは、全国各地の小学校で実施している環境教育「出前授業」や「日通の森」のある鳥取県内の間伐材から抽出した天然アロマ作り体験などを行いました。また、当社が行っている森林育成活動を踏まえて、C.W.ニコル氏による「森の多様性」についてトークセッションを実施いたしました。



2015  
1月

## 「ゴールドメンバーズ そらねっとプラス」の提供を開始

当社は、2015年1月22日から新たな国内航空貨物Webサービス「ゴールドメンバーズ そらねっとプラス」の提供を開始いたしました。このサービスは、全国各地の拠点から出荷したお客様の貨物の輸送状況をWeb画面上の日本地図に一覧表示することで、お客様がリアルタイムで貨物を一括管理できるものです。これにより、輸送状況の見える化を実現し、事務作業の効率化をサポートいたします。



## ecoトピックス

当社は省資源化・循環型社会の実現に向けてさまざまな活動に取り組んでおります。



## CO<sub>2</sub>削減への「世界共通行動」を開始

当社は、CO<sub>2</sub>削減に向けた従業員の意識向上を図るべく、世界41か国に展開する日通グループ各社の事業所に「緑(植物)」を置く「世界共通行動」を2015年1月から開始いたしました。また、この共通行動を積極的に推進するため、当社の企業ロゴである㊦マークを緑色にしたポスターを全ての事業所に掲示しております。

さらに4月からは、各地の現地法人がそれぞれ設定した目標に合わせて、環境保全・CO<sub>2</sub>削減に取り組んでまいります。



環境への取組みを含む日通グループのCSR活動を記載しているCSR報告書は、ホームページ内「会社情報」からご覧いただけます。

<http://www.nittsu.co.jp/corporate/csr/index.html>

# 海外トピックス

(2014年10月1日~2015年3月31日)

グローバル戦略を推進する当社は、海外において、当下半年もさまざまな活動を行ってまいりました。こちらではその一部をご紹介します。

## 海外ネットワーク

世界41カ国、240都市に514の拠点を構えております。  
(2015年3月31日現在)

### ●米州地域

米国、カナダ、ブラジル、メキシコ、コロンビア

### ●欧州地域

ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコ、ポーランド、ルーマニア、ロシア、英国、アイルランド、オランダ、ベルギー、フランス、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル、スウェーデン、ノルウェー、アラブ首長国連邦、トルコ、南アフリカ

### ●東アジア地域

中国、韓国、台湾

### ●南アジア・オセアニア地域

シンガポール、バングラデシュ、ミャンマー、カンボジア、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア、インド、ベトナム



会社情報



サービス情報

2014  
11月

## 児童画による 海外交流を輸送支援

当社は、ヨハネスブルグ駐在員事務所と連携し、2014年11月に行われた「都筑・ボツワナ交流児童画展」の輸送支援を実施いたしました。同展は、横浜市立茅ヶ崎小学校とベン・テマ小学校の児童が描いた絵画を105点ずつ送り、互いに展示して、国際交流を深めることを目的としたものです。当社は今後もこのような社会貢献活動を支援してまいります。



2014  
11月

## メキシコに「サンルイスポシ・ロジスティクスセンター」を開設

メキシコ日本通運株式会社は、2014年11月に「サンルイスポシ・ロジスティクスセンター」を開設いたしました。日系物流企業として初めてフリートレードゾーン<sup>(※1)</sup>内に保税倉庫を設置することで、これまでメキシコとの国境で行っていた通関手続きが不要となり、大幅なリードタイムの短縮を実現し、メキシコ中部までダイレクト輸送が可能となりました。



2014  
12月

## 物流に関するハラル認証を取得

マレーシア日本通運株式会社は2014年12月に運送に關するハラル<sup>(※2)</sup>物流認証を日系物流企業として初めて取得いたしました。これにより、マレーシア国内でのハラル食品やハラル飲料・化粧品等の輸送サービスを本格的に開始いたします。

### 【用語解説】

※1 フリートレードゾーン:通関手続きを経ずに貨物を輸入でき、加工、組み立て、梱包、保管、展示などの後、再び輸出できる区域。(自由貿易地域)

※2 ハラル:イスラムの教え(シャリーア法とイスラム原理)で許された、「健全な商品や活動」のことの全般。食品だけでなく、化粧品や医薬品、介護用品、金融などさまざまなサービスにも適用される。



2015

1月

## オランダに欧州最大級の物流拠点を開設

オランダ日本通運株式会社は、2015年1月に日通グループが欧州で運営する倉庫として最大となる「European Logistics Center3」を開設いたしました。同施設は、欧州で最大規模のコンテナターミナルを持つロッテルダム港・マースフラクテ地区に位置し、70,000㎡の建築面積を有しております。この立地条件を活かし、西ヨーロッパ全域へ配送する物流拠点として運用することにより、欧州全域への配送のさらなる効率化を実現してまいります。



2015

1月

## ミャンマー日本通運が営業を開始

南アジア・オセアニア日本通運株式会社は、ミャンマー日本通運株式会社を設立し、2015年1月から営業を開始いたしました。大規模な開発プロジェクトが進み、多くの日系企業の進出が期待されるミャンマーを舞台に、海上・航空便の国際輸送をはじめ、さまざまなニーズに対応するサービスを提供してまいります。



オープニングセレモニーで挨拶する日本通運渡邊社長

2015

1月

## 新輸送サービス 「中東欧ダイレクト混載」を開始

当社は、コンテナ1本に満たない小口貨物をスロベニア・コペル港を経由して、ハンガリー・ブダペストに輸送する、日本発海上混載一貫輸送サービス「中東欧ダイレクト混載」を開始いたしました。これにより、従来のルートに比べ、リードタイムで最大4日、輸送コストは最大20%削減が可能となりました。サプライチェーンの構築が進められている中東欧諸国において、順次、高品質な輸送サービスを展開してまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	当期末 2015年3月31日現在
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	719,313
現金及び預金	207,112
受取手形	13,471
売掛金	321,679
たな卸資産	6,020
前渡金	4,098
前払費用	12,670
繰延税金資産	13,689
リース投資資産	108,273
その他	33,602
貸倒引当金	△1,304
<b>固定資産</b>	734,304
<b>有形固定資産</b>	492,545
車両運搬具(純額)	24,092
建物(純額)	234,437
構築物(純額)	11,784
機械及び装置(純額)	13,932
工具、器具及び備品(純額)	21,718
船舶(純額)	5,387
土地	176,165
リース資産(純額)	3,956
建設仮勘定	1,071
<b>無形固定資産</b>	60,087
借地権	7,527
のれん	14,821
その他	37,737
<b>投資その他の資産</b>	181,670
投資有価証券	133,577
長期貸付金	2,513
従業員に対する長期貸付金	139
長期前払費用	4,643
差入保証金	21,245
退職給付に係る資産	1,783
繰延税金資産	6,607
その他	12,169
貸倒引当金	△1,009
<b>資産合計</b>	<b>1,453,617</b>

\*記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

区分	当期 2014年4月1日～ 2015年3月31日
売上高	1,924,929
売上原価	1,783,621
<b>売上総利益</b>	<b>141,308</b>
販売費及び一般管理費	90,497
<b>営業利益</b>	<b>50,811</b>
営業外収益	14,483
受取利息	708
受取配当金	2,474
車両売却益	349
持分法による投資利益	744
為替差益	2,840
その他	7,367
営業外費用	5,731
支払利息	2,882
車両売却除却損	43
その他	2,805
<b>経常利益</b>	<b>59,563</b>
特別利益	8,745
固定資産売却益	2,875
投資有価証券売却益	5,205
その他	664
特別損失	19,329
固定資産処分損	7,686
投資有価証券売却損	7
投資有価証券評価損	606
減損損失	5,441
米国集団訴訟関連引当金繰入額	3,899
事業構造改善費用引当金繰入額	1,050
その他	638
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>48,978</b>
法人税等	22,916
少数株主損益調整前当期純利益	26,062
少数株主利益	△319
<b>当期純利益</b>	<b>26,382</b>

\*記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

区分	当期末 2015年3月31日現在
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	491,940
支払手形	7,308
買掛金	170,211
短期借入金	83,397
未払金	25,949
未払法人税等	16,192
未払消費税等	16,487
未払費用	21,127
前受金	26,906
預り金	61,165
従業員預り金	27,764
賞与引当金	21,752
役員賞与引当金	135
保証修理引当金	62
米国集団訴訟関連引当金	3,899
事業構造改善費用引当金	1,050
その他	8,530
<b>固定負債</b>	<b>411,539</b>
社債	65,000
長期借入金	180,969
繰延税金負債	4,865
役員退職慰労引当金	350
特別修繕引当金	202
債務保証損失引当金	829
退職給付に係る負債	135,678
その他	23,644
<b>負債合計</b>	<b>903,480</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	497,490
資本金	70,175
資本剰余金	26,908
利益剰余金	419,851
自己株式	△19,444
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>34,419</b>
その他有価証券評価差額金	61,900
繰延ヘッジ損益	△7
為替換算調整勘定	14,901
退職給付に係る調整累計額	△42,375
<b>少数株主持分</b>	<b>18,227</b>
<b>純資産合計</b>	<b>550,137</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,453,617</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区分	当期
	2014年4月1日～ 2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,386
財務活動によるキャッシュ・フロー	△33,636
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,373
現金及び現金同等物の増減額	22,869
現金及び現金同等物の期首残高	125,900
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	172
現金及び現金同等物の期末残高	148,942

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

### ● 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは745億円の収入となり、前連結会計年度に比べ166億円収入が増加しました。その主な要因は、未払消費税等の増加等によるものであります。

### ● 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは223億円の支出となり、前連結会計年度に比べ357億円支出が減少しました。その主な要因は、子会社株式の取得による支出が減少したこと等によるものであります。

### ● 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは336億円の支出となり、前連結会計年度に比べ394億円収入が減少しました。その主な要因は、長期借入れによる収入が減少したこと等によるものであります。

## 連結株主資本等変動計算書 (2014年4月1日～2015年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	其他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	70,175	26,908	417,869	△17,353	497,599	40,077	3	3,829	△45,628	△1,717	14,072	509,954
会計方針の変更による累積的影響額			△1,819		△1,819							△1,819
会計方針の変更を反映した当期首残高	70,175	26,908	416,050	△17,353	495,779	40,077	3	3,829	△45,628	△1,717	14,072	508,135
当期変動額												
剰余金の配当			△10,258		△10,258							△10,258
当期純利益			26,382		26,382							26,382
連結範囲の変更に伴う増減			656		656							656
自己株式の取得				△15,072	△15,072							△15,072
自己株式の処分		0	△0	2	2							2
自己株式の消却		△0	△12,979	12,979	-							-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						21,822	△11	11,072	3,253	36,136	4,155	40,291
当期変動額合計	-	△0	3,801	△2,090	1,710	21,822	△11	11,072	3,253	36,136	4,155	42,002
当期末残高	70,175	26,908	419,851	△19,444	497,490	61,900	△7	14,901	△42,375	34,419	18,227	550,137

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

より詳細な業績の情報は、当社のIRサイト

<http://www.nittsu.co.jp/ir/index.html> をご覧ください。

日本通運 IR

検索

## 会社の概況

### 会社概要

会社名	日本通運株式会社 (NIPPON EXPRESS CO.,LTD.)	
設立	1937年10月1日	
資本金	701億75百万円	
従業員数	32,510名	
本社	〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号 TEL.03-6251-1111 <a href="http://www.nittsu.co.jp/">http://www.nittsu.co.jp/</a>	
連結子会社および持分法適用会社	連結子会社 266社 持分法適用会社 26社	

### 役員 (2015年6月26日現在)

#### ●取締役

代表取締役会長	川合正矩
代表取締役社長 社長執行役員	渡邊健二
代表取締役副社長 副社長執行役員	大日向明
代表取締役副社長 副社長執行役員	齋藤充
代表取締役副社長 副社長執行役員	伊藤豊
取締役 専務執行役員	石井孝明
取締役 常務執行役員	新居康昭
取締役 常務執行役員	竹津久雄
取締役 常務執行役員	寺井克宏
取締役執行役員	佐久間文彦
取締役執行役員	林田直也
取締役	澁澤登
取締役	杉山雅洋
取締役	中山慈夫
取締役	安岡定子

#### ●監査役

常勤監査役	和田貴志
常勤監査役	渡邊善治郎
常勤監査役	今野洋美
監査役	藤田讓

#### ●執行役員

常務執行役員	島内技
常務執行役員	田淵秀明
常務執行役員	藤居憲二
常務執行役員	後藤康弘
常務執行役員	村上浩之
常務執行役員	横尾行雄
執行役員	小淵雄二
執行役員	高橋康紀
執行役員	近藤晃
執行役員	井手憲文
執行役員	田中和志
執行役員	青山陽一
執行役員	杉山龍雄
執行役員	秋田進
執行役員	中村栄一
執行役員	小林弘一
執行役員	植松満
執行役員	吉岡英
執行役員	内田敏朗
執行役員	堀切智

※ 取締役 杉山 雅洋、中山 慈夫および安岡 定子の各氏は社外取締役であります。  
監査役 渡邊 善治郎、今野 洋美および藤田 讓の各氏は社外監査役であります。

## 株式の状況

株式数	発行可能株式総数	3,988,000,000 株
	発行済株式の総数	1,038,000,000 株
株主数		66,228名

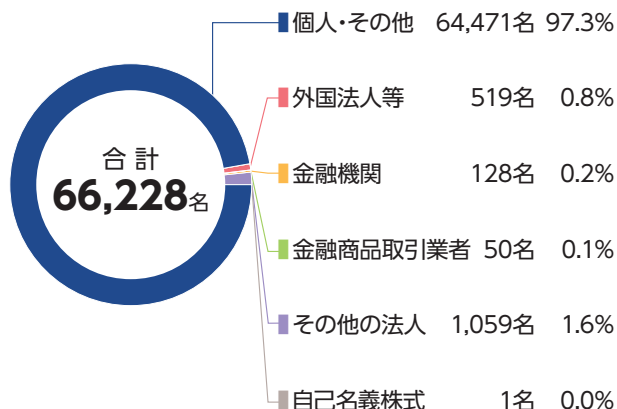
## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	82,311	8.2
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	69,461	6.9
朝日生命保険相互会社	56,019	5.6
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	50,967	5.1
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	41,500	4.1
日通株式貯蓄会	34,600	3.5
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	25,806	2.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	21,316	2.1
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	12,219	1.2
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌブイ 10	12,184	1.2

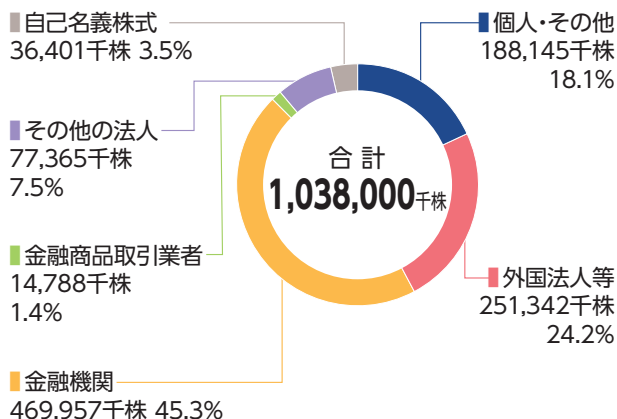
※当社は、自己株式36,401千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

## 所有者別株式の分布状況

### ● 株主数および比率



### ● 株式数および比率



# 株主さまインフォメーション

## Information

### 株式Q&A

**Q** 特別口座にある株式を証券会社の口座に振替えたいのですが…

**A** あらかじめ、証券会社に口座開設をした後で、当社の特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行までお申し出下さい。単元未満株式についても振替が可能です。振替にかかる手数料はございません。

**Q** 単元未満株式を処分したいのですが…

**A** 当社では、下記のように単元未満株式の**買取・買増請求制度**を採用しておりますので、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行までお申し出下さい。

※すでに、単元未満株式を特別口座から証券会社の口座に振替えられた場合は、振替先の証券会社にお申し出下さい。

### 単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

**買取請求** 1,000株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 600株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

当社に市場価格で  
**売却**  
600株 - 600株 =  **現金化**

**買増請求** 1,000株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 600株を保有の場合、400株を買い増して、1,000株とすることができます。

400株を、当社から市場価格で  
**購入**  
600株 + 400株 = 1,000株 **単元株式 (1,000株)**

### 各種お手続きのお申し出先

- ①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社
- ②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行  
(※下記までお問い合わせ下さい。)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
☎ 0120-232-711 ☎ 0120-244-479(用紙ご請求専用)  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては当社ホームページでもご案内しております。

<http://www.nittsu.co.jp/ir/procedure/index.html>

日本通運 株式諸手続き

検索



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	1,000株
上場取引所	東京
証券コード	9062

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

(同連絡先)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
☎ 0120-232-711

公告方法

電子公告  
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。  
電子公告掲載ホームページアドレス  
<http://www.nittsu.co.jp/>

## ホームページ紹介

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報、サービス情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しております。



こちらから当社IRサイトをご覧ください。



### IR資料室

IR資料室では次のような資料をご覧ください。

- 決算短信
- IRニュース
- 有価証券報告書
- アニュアルレポート
- ファクトブック

日本通運

検索

<http://www.nittsu.co.jp/>

# 世界日通。

あなたのグローバルビジネスをフルサポート。

## Euro Bridge 3000 [NETHERLANDS - POLAND - RUSSIA]



日本通運は、オランダ・ロッテルダムからポーランド・ワルシャワを經由し

ロシア・モスクワへ至る独自の一貫輸送サービス、EB3000(ユーロブリッジ3000)を展開。

ヨーロッパ主要都市を結ぶ自社ネットワークと陸上、海上、空の輸送モードを駆使した高度なロジスティクスサービスを提供しています。

アジアで、アメリカで、そしてここヨーロッパで国境を越えてあなたのビジネスをフルサポート。世界日通。日本通運です。



〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号  
TEL: 03-6251-1111  
URL: <http://www.nittsu.co.jp/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。